

平成 21 年 7 月 24 日

# 平成 21 年度教育学研究科 FD 研修（第 1 回：『ハラスメントのないキャンパスをつくろう』）の実施および事後アンケートへの回答集計結果について（報告）

教育学研究科ハラスメント防止委員会

## 0 研修の概要

- ・日時： 平成 21 年 7 月 15 日（水）午後 4 時 - 5 時 30 分
- ・場所： 文科系総合研究棟 11 階大会議室
- ・内容： 吉武 清實教授（高等教育開発推進センター・臨床心理士）の講話（配付資料）
- ・配付資料：
  - ハラスメント防止のために～危機管理・メンタルヘルス対策・自殺対策としてのハラスメント対策（パワーポイントスライドの配付資料版： 2009 年、吉武清實教授作成）
  - 「ハラスメント防止対策へのニーズ調査報告書」（2006 年 6 月，東北大学教育学研究科・教育学部ハラスメント防止委員会作成）
- ・参加者： 教員 24 名、事務職員 3 名（事務長、庶務係長、教務係長）

## 1 アンケートの内容

設問 本日の研修についていかがですか。あなたの考えに近い数字を で囲んで下さい。

【1】本日の研修内容は、役にたちそうですか。

（たいへん役にたちそう 6 から、全然役にたたなそう 1 までの 6 段階評定）

【2】本日の研修企画は、意義があると思いますか。

（たいへん意義があった 6 ～ 全然意義がなかった 1）

【3】本日のような研修企画を、本学部・研究科が今後も継続することについてどう思いますか。

（ぜひ継続すべき 6 ～ まったく継続の必要性はない 1）

【4】本日のハラスメント研修に関して意見や感想がありましたらお書きください。

（自由記述）

設問 今後のハラスメント防止対策に期待することなど、意見や感想がありましたらご記入ください。（自由記述）

## 2 アンケートへの回答の集計

### 2-1 回答の概況

- ・対象者数 24 名 (研修に参加した教員全員)
- ・回答者数 24 名 (回答率 100%) ; うち 1 名は設問 【1】から【3】に無回答

2-2 設問 の【1】～【3】の各項目についての評定値の分布は Table1 のとおりであった。

Table 1 設問 の項目別評定値の分布 数値は人数 (回答者中に占める百分率)

項目 \ 評定値	6	5	4	3	2 以下	計
1 役に立つ	9(39.1)	9(39.1)	3(13.0)	2(8.7)	0(0.0)	23 (100)
2 意義がある	8(34.8)	12(52.2)	2(8.7)	1(4.3)	0(0.0)	23 (100)
3 継続すべき	11(47.8)	7(30.4)	4(17.4)	2(8.7)	0(0.0)	23 (100)

2-3 設問 の 4 に対する回答 (自由記述 ; 13 名、延べ 14 件)

#### A 具体的な情報が得られたとするもの (6 名)

- a1. 具体的な事例がおおくありたいへん参考になりました。ありがとうございました。
- a2. 要注意の 30 か条と照合させながら自分の言動をふり返りかんがえたときドキッとした項目があった。わかっているつもりでもそうではない自分をふりかえり自覚するためのいい研修となった。ありがとうございました。
- a3. 豊富な事例による説明を頂きわかりやすかった。
- a4.“ハラスメントはどういう状況で起きているか”、“ハラスメントの例”が参考になった。
- a5. 小・中・高のクラス担任的や区割りも今後必要になってくるのではないかという話には、ちょっとショックを受けた。
- a6. 「調査」という解決策がよく理解できました。

#### B 講話内容についての要望・意見、プレゼンテーションの進め方に関するもの等 (8 名)

- b1. 客観的に立証しにくいのが、周囲 (複数) の教員から見るとハラスメントになっている場合の具体的な対応などのコツをご教示いただければと思います。様々な情報たいへん勉強になりました。ありがとうございます。
- b2. ハラスメントに関係している学生 / 教員が、発達障害 / 人格障害が疑われている場合、どのような対応をすればよいのか (周囲、当事者とも) 具体的な方策等があれば知りたいと思った。
- b3. 「メンタルヘルス対策」という観点から学生対応についての FD を行っていただくと、また我々なりに気づくこと (ハラスメントとは言えないまでも学生に圧力となっていることなど) も多いのではないかと思います。
- b4. 事例についてお話し下さるのはよろしいのですが、教員としての契約上の責任・義務の話と、モラル上の心構えの要請が混交しているように感じる。FD のねらいがどこにあるのか (職務上の関係か、それとも臨床心理士としての立場からの情報提供なのか) 明確にしてご説明いただくことを希望します。
- b5. パワポ毎の情報量が多いのでもう少し、系統立てていただくとありがたいです。
- b6. 内容を精選して再校正すればもっと短時間で効果的な研修が可能ではないかと思う。スラ

- イドの文字が多く、生々しさ・リアリティという面については欠けていたかもしれない。
- b7. 前回と内容的にあまり変わっていなかった。
  - b8. 以前に聴いた内容と重複あり。初任者用 FD と、そうでない人を分けてもいいかもしれない。

C アンケートに対する意見・要望 (1名)

- c1. (設問 の1~3に関して)多すぎます！ 同じことの繰り返しのように感じるので工夫されたし。

2-4. 設問 に対する回答(自由記述; 4名4件)

D. 今回と同タイプのFDの講話内容についての要望(3名)

- d1. 環境型セクハラ的事例について、より多くの事例をきかせて頂きたいです。
- d2. からかい (tease,teasing) とハラスメントのちがい、受け取る人の文化・属性、年代(世代)によるちがいなど。

E 今回とは異なるタイプのFD研修についての要望(1名)

- e1. メンタルヘルス対策、自殺対策についてのFDもあるといいと思います。さらに、差しつかえない範囲で case への詳しい対応について知ることができればと思います。
- e2. 教員の研究室マネージメントについて、教員間での経験交流の場を設定することもあってよいのではないか。

3 まとめ

3-1 今回のFD研修についての評価

事後アンケートでの質問項目1の【1】【2】【3】のいずれについても、回答者の77%以上が「6」または「5」の評定をしたことから、今回のFD研修は、「役にたつ」「意義のある」「今後も継続すべき」ものとして、参加者から肯定的で高い評価を受けたといえる。同時に、質問項目の【4】に対する回答として、具体的な情報が得られてよかったとする感想とともに、提供される内容・情報の精選が必要との意見もあった。

3-2 今後のFD研修のあり方についての意見

アンケートの質問項目 に対する回答として、メンタルヘルス対策、自殺対策に関するFD、また、事例への対応についての詳細な情報も要望する意見、また、講話形式でなく、研究室マネージメントに関する教員間の経験交流の場の設定が必要との意見があった。

以上